

秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第 6 号

発行日：2013 年 12 月 1 日
発行者：美祢市自然保護協会
美祢市立秋吉台科学博物館内
TEL:0837-62-0640

秋吉台憲章

- 秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。
- 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。



センブリ

平成 25 年度 定期総会から

会長挨拶

— 25年度の活動方針 —

本日は美祢市長さんをはじめ、ご来賓各位のご出席をたまわり、平成 25 年度美祢市自然保護協会総会を開催できますことは、誠に喜ばしく、心から厚くお礼申し上げます。

さて、自然保護協会は昭和 44 年に発足し、これまで 44 年間の歩みをしてきました。振り返ってみますと、昭和 40 年代頃から毎年 150 万人以上の観光客が来られるようになり、この受け入れのため観光開発が優先されるようになり、これに対し、自然保護を求める声も高まってきました。観光振興には開発と自然保護の調和が求められるようになりました。このような背景があって、町民総参加のもとに昭和 44 年 7 月に自然保護協会が設立され、44 年間秋吉台の自然保護活動に取り組んでまいりました。

秋吉台・秋芳洞観光は、景観もさることながら、学術的価値に魅力があり、このため特別天然記念物に指定されています。

私たち自然保護協会は地元住民として、秋吉台・秋芳洞を誇りとし、豊かな自然環境を守るとともに、これを地域発展に生かすことが大事だと考えています。これまで、秋吉台・秋芳洞を学術観光といった観点でとらえ、学術研究・自然保護・観光振興、これらの視点から行政と町民が一体となって取り組んできました。学術観光に大きな役割を果たしてきたのが秋吉台科学博物館です。自然保護協会は科学博物館と連携しながら活動を展開してまいりました。これからも自然保護活動を通し観光振興に寄与したいと考えています。また、秋吉台の魅力を紹介するパンフレットの発刊や自然保護協会はどうかあるべきかについても検討を続けてまいりたいと思います。

終わりにあたり、本日の総会に提案しています議案につきましては、十分ご審議いただき、会員の皆様と共に本協会の発展に尽力してまいりたいと思います。

美祢市自然保護協会 会長 河本 芳久

秋芳洞内の生物 コウモリについて

秋芳洞は毎年 60 万人前後の観光客が訪れる日本有数の観光洞窟です。毎日のように多くの人が入洞しているにも関わらず、洞窟の中には多数のコウモリが生息しています。

最も目にしやすいのは、キクガシラコウモリです。毎年夏に、秋芳洞の入口付近や百枚皿の上の天井などに集まって、子育てをしています。コウモリは夜行性で、日中は洞窟で眠り、夕方になると餌である昆虫を食べるために洞窟から出ていきますが、子育て中のコウモリは幼獣の保温や世話、警戒などのため、日中も起きてることが多いです。洞窟の中で天井付近を飛び回るコウモリを見かけたり、コウモリの声を聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。

キクガシラコウモリは初夏から繁殖場所に集まり始め、7 月上旬ごろに出産します。生まれた幼獣はすぐには飛ばず、母獣によって 40 ~ 50 日間育てられた後、独立します。子育て時期のコウモリは非常に神経質です。人間が近づいたり、強い光を当てたり、大きな音を

出したりすると、コウモリは脅威を感じて逃げ出そうと飛び回ります。そうすると、飛べない幼獣が振り落とされてしまったり、子育てを止めてしま

うこともあります。コウモリは一年に一度しか繁殖しません。また、ほとんどの種類が 1 回の繁殖で 1 頭しか生まないため、繁殖場所が脅威にさらされることは、個体数の減少につながってしまいます。

秋芳洞のようにたくさんの人が訪れる洞窟で、毎年継続して子育てがおこなわれているのは実は珍しいことです。おそらく、秋芳洞の天井が高くコウモリと人間の距離が遠いことが、このような共存を可能にしているのでしょう。それでも、コウモリにとって人間が洞窟という彼らの住処に侵入してくる恐ろしい存在であることには変わりありません。私たちの不用意な行動でいまの良い関係を壊すことのないよう気をつけていきたいものです。

秋吉台科学博物館 学芸員 理学博士 石田 麻里



秋芳洞で保護された
キクガシラコウモリの幼獣

—平成 25 年度（前期）主な活動紹介—

会員研修 平成25年8月25日(日)

平山郁夫美術館見学

猛暑が続いていたが、昨夜来の雨。小雨の中を会員 39 名を乗せたバスは秋芳町を出発。

主たる目的地は、「しまなみ海道」生口島。

宮島が見えるあたりから雨もやみ、窓越しに瀬戸内海の景色が楽しめるようになった。しまなみ海道に入ると、尾道大橋、因島大橋生口大橋と雄大な橋が続く。

平山郁夫美術館到着。瀬戸田町は、現代日本画家を代表する平山の故郷である。

館内には、彼の少年時代から晩年までの作品が展示されている。彼の作品には、仏教をテーマにした作品も多く、さらには世界の文化財保護にも多くの足跡を残している。

午後は、耕三寺、万田酵素株式会社見学。

有益な一日であった。

会員 金石 弘士



平成 25 年度 自然保護啓発作品入賞者

習字の部

審査員 寺田章子・蔵本隆博

金賞

秋吉小2年 津立 凜花
大田小5年 村田 結菜
秋芳南中1年 三藤 雅也

銀賞

川東小3年 重枝 花菜
大田小2年 福田 華
秋吉小4年 秋山 佳菜
於福小6年 松井信一朗
伊佐中2年 岩崎 勇樹
於福中3年 市 李沙恵

銅賞

伊佐小1年 西山 昇汰
大田小3年 井上つむぎ
於福小3年 阿野 咲
秋吉小4年 石田 心海
綾木小5年 岩間 千里
嘉万小6年 上本 可菜
秋芳南中1年 内山 尚子
秋芳南中3年 幸坂 美柚
伊佐中3年 岡田 百花

がんばりましたで賞

嘉万小1年 古谷 周音
大田小3年 小野 愛羅
別府小1年 末岡 春希
綾木小2年 岩間 朱萌
嘉万小4年 原川 依莉
大田小4年 福田 凜子
大田小5年 田中 琴乃
別府小6年 竹本 陽菜
豊田前中1年 小林和佳奈
秋芳南中3年 廣中菜々子
伊佐中3年 中村 光里
伊佐中3年 村上 卓

ポスターの部

審査員 松田由布・木曾裕紀代

金賞

大田小3年 白石 優輝
別府小5年 阿座上愛美
伊佐中3年 金子 璃奈

銀賞

川東小3年 松永 大樹
大田小4年 中島 真也
嘉万小5年 鈴木 明華
嘉万小5年 宇山 僚一
大嶺中2年 蒲 夏輝
大嶺中3年 福村 美樹

銅賞

秋吉小1年 中島 幹希
別府小2年 森永 雄大
大田小3年 藤原 平羅
大田小5年 新家 伊吹
嘉万小6年 五嶋さくら
大嶺中2年 國弘 萌
大嶺中2年 谷 絢愛
秋芳南中3年 中村 俊樹

がんばりましたで賞

大嶺中2年 柴崎 響介
大嶺中2年 和田 真愛
秋芳南中1年 村中 優香
大田小2年 石津 颯人
大田小2年 永田 船多
麦川小3年 羽根 幸
大田小3年 山本夏乙陽
嘉万小5年 泉 健斗
麦川小5年 西村 妃央
大田小6年 田村菜々穂
麦川小6年 吉村 葵
秋芳南中3年 末永 穂乃

応募総数 179 点
小学校 152 点：中学校 27 点

応募総数 46 点
小学校 28 点：中学校 18 点

■ 短歌・俳句 ■

秋芳短歌会

秋桜の苑に烟りしわが夫の

十七回忌は定かに為さむ

あきあかね雨のあがりし草原を

羽光らせて飛びかひにけり

ホトトギス秋芳句会

さわやかに語る友あり句に生きる

爽やかな今日の句会が初舞台

野火句会

重陽や腕に浮かせし柚子の香を

名刹の松の雲間に盆の月

長 安喜子

前田 時博

柿村喜代美

伊津野 功

波多野深雪

長谷 伸由

恒例の7月27日(土)

花火大会

秋吉台の
清掃活動
雨で中止

多くの人(約63000人)で賑わった。

翌日の朝は、自然保護協会会員による清掃活動の予定であった。しかし、大雨で中止。

シルバーの皆さんは、大雨の中を実施されました。ご苦労さんでした。

平成25年度後期行事予定

- ・ 広報「秋吉台」第7号発行 3月
- ・ 役員研修会 延期
- ・ 秋吉台の自然保護パトロール 12月
- ・ 自然保護啓発作品(絵画・習字)
小・中学生入選者作品巡回展
- ・ 「秋吉台物語」(仮題) 発刊に向けての編集